

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773600479		
法人名	有限会社 アラキコーポレーション		
事業所名	グループホーム きさべ		
所在地	大阪府交野市私部南2丁目18—6		
自己評価作成日	平成27年10月2日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成27年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来「最期まで住み慣れた所でその人らしく暮らす」をモットーに、家族とスタッフが協力した介護でありたいと支援している。スタッフも主婦が働き易い職場を目指している。おかげでスタッフの定着率も良く、入居者さんが家族より馴染みの関係と成り、落ち着いて暮らす家と成っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者とスタッフ間で会話が飛び交い活気に溢れている。経験豊かな管理者は、利用者が「普通の生活を当たり前で暮らすこと」をモットーに自立支援に取組みながら、気持ちよく働ける職場環境づくりにも注力し、職員のモチベーションが高く、介護福祉士資格取得者が多い。工夫点としては、毎月「きさべ新聞」を開設以来継続して発行し、日々の暮らしの状況を伝えることで、事業所への家族の信頼感が高まり、協力的な家族も多い。家族がホームの歌「みんなの我が家」を作詞作曲してくれたエピソードもある。ホームでは多彩な行事や楽しみ事、日常的な散歩外出、事業所内での、食事準備や干し物などの共同作業で暮らしの張り合いや役割を提供している。特筆される点は、利用者の重度化に対応して提携医師や看護師との連携で、ターミナルケアに取組み、今までに19名、この1年でも4名をホームで看取っており、理念に謳う「最後まで自分らしく過ごせる家でありたい」の言葉が、文字通り具現化されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、月曜日に1回、職員会議を開催し、理念の実践と改善、ケアについての情報交換を行っている。	事業所の理念を「普通の生活を当たり前を提供していき、最後まで自分らしく生活していく、そんな家でありたい」と定め、玄関ホールや事業所内に掲示している。管理者、職員は利用者寄り添った支援をすすめて理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	庭での行事は、近所の方にも声を掛け、参加を呼びかけている。	近隣住民に野菜や花を頂いたり、近くのお寺に散歩や催しで訪れて接待をうけるなど、つながりを深めている。多彩なボランティアの来訪による楽しみ事や、キッズ向け認知症サポーター講座の開催など、双方向的な交流が出来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気楽に立ち寄って頂き、介護相談や、見学が随時行われている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに、偶数月の第3木曜日を開催日としている。席上で報告、情報交換等を実施している。	会議は利用者と家族、行政担当者、民生委員、管理者、職員の参加で、隔月に開催し、運営に関する事業所の諸活動の報告と共に、参加者から経営についての要望・助言等もあり、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	会議は定例化し、有意義に活用されているが、会議参加者の構成要件である知見者の参加を考えられたい。同業者の参加を要請して相互出席などで、サービスの向上に資すること等を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の介護保険課の職員さんとは、よく連絡を取り合っており、市内の5ヶ所のグループホームを職員が相互に見学させてもらい、介護向上に役立たせている。	市の高齢介護課とは、介護保険の申請代行等の他に、運営上の質問や、入居者に関する相談事などで助言を得るなど、頻回に連携している。3か月毎のグループホーム連絡会も出席し、毎月2名介護相談員の訪問を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束については、常日頃から研修や掲示にて身につけており、意識啓発に努めている。	身体拘束排除のマニュアルを備え、研修を実施して、職員はその弊害を理解している。現在、拘束該当の利用者はいない。玄関入口は一応施錠しているが、日中は散歩や、敷地内のベンチでの歓談などで開錠している時も多く、利用者も簡単に開けられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修には職員も参加し、十分に理解させる為、カンファレンスで常に周知するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利として利用できる物があれば、利用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今までの経験を活かし、家族の知りたい情報・不安を察知し、十分な説明で納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の介護相談員の来訪の際に、利用者の意見・不満・苦情を伺う機会を設けている。	家族の面会や行事参加等で訪問があり、話し合う機会がある。毎月の利用料請求時に送付する「きさべ新聞」にホームの各種行事・話題等と、個別に家族の情報も記入して郵送している。家族アンケートでも、事業所に行きやすく、意見や要望をよく聞いてくれるとの好評価を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の会議にて自由な意見交換が出来る。又、日常の自由な対話も出来ている。	毎日の申し送りや、毎月の職員会議の場で職員の意見・提案等を聞く機会を設けている。管理者は、給与支給時に毎回、個別にコメントを付記するなど、良好な関係づくりに努めており、職員の定着率も高い。資格取得を奨励し、待遇にも反映しており、介護福祉士等の有資格者が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ライセンスに応じて昇給制度が有る為に、ほとんどの職員がライセンス向上に努力している。毎月事前に希望休を把握、長期休暇、病欠も取れる、主婦が働き易い職場を実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議で職員には年間研修計画に従って、研修を実施している。勤続年数によって資格修得を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じ、ネットワーク作りをしている。各グループホームの見学を相互に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・面接の中で、入居前の生活が維持出来る様、家族様からの情報を最大限に生かせるケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまで何度も面接・連絡を取り、理解を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じ、他のサービスや医療機関とも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずは入居前の生活と変わらない様にサポート程度のケアに努め、本人の希望を見極め、介護されるという実感でなく、自分も必要な一人と思って頂ける関係にしていくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に代わって出来る事は職員が支援していくが、家族様にしか出来ない支援は、積極的に参加してもらう様、常日頃から呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人との面会・外出・電話・手紙を支援し、ご家族・知人・友人の来訪があり歓迎している。	家族の面会時に外出を促している。外食や墓参り、旅行に出かける利用者や、家の近所の知人が訪ねてくる方もいる。かかりつけの美容室に家族の支援で行けるよう、旧来の繋がりを大切にして持続できるように援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人に合った過ごし方を基に、仲良く暮らせるよう、不平不満を察知し、暮らし易く取り組む。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族様とのお手紙交換や、いつでも立ち寄って頂けるよう、終了時に説明している。今もボランティアとして来訪して下さる家族様も多くいらっしゃる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の、利用者の症状についての朝夕の引継ぎは、各、30分。カンファレンス等では全職員の共通情報として把握し、介護に活かしている。	職員は、利用者と個別にじっくりと話し合うことに努めており、得られた情報を申し送りで共有して支援に活かしている。意思の表出が困難な利用者も、共に暮らす中で快不快の態度や表情や、発語などを汲みとって、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様からのお話を傾聴し、生活歴の把握に努め、本人の生活が維持出来る様、職員一同共有、実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が、利用者さんとの会話に努めている。カンファレンスで全職員の共通情報としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りから問題点等を知り、ケアカンファレンスで話し合い、職員がチームとして利用者一人一人の情報を共有している。	入居時の情報収集によるサービス計画作成後、職員が個別介護記録に支援状況を記録し、利用者の今できること、関わり方、日常行うこと、などを会議で討議・共有して、援助内容の充実、見直しを行い、本人本位のケアに取り組んでいる。サービス計画は、通常は3~6ヶ月及び状況変化時に随時見直し、家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアした部分を最終的には、日勤リーダーが個別のケース記録に集結し、管理している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	『医療連携』や個別ケアに必要な事は、家族様との話し合いの中で、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田畑に囲まれたホームは、散歩に出れば、お野菜を頂いて帰って来たり、お寺ではお茶とお菓子を楽しませて頂いたり、地域に根付いた暮らしを楽しませて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週内科医師の往診、歯科医師は毎週火曜日の往診を頂いている。年に2回は精密検診も受診している。	利用者、家族の希望を尊重して、話し合いで事業所の協力医をかかりつけ医とし、毎週内科医の往診と必要に応じて歯科医の往診を受けている。入居前からの継続医療受診が必要な場合も適切な受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の活動の中で、看護職員や訪問看護師等に支援していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はホームからとホームドクターから情報提供を行い、退院時は病院からの情報交換、リハビリ等の見学と、退院後も切れ目の無いケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム開設以来、終末まで生活出来る様に、ご家族・ホームドクターと話し合い、方向性・看取りの同意を得ている。18名の看取りを行って来た。	管理者、職員は「最後までその人らしく生活する」を共有して重度化や終末期について、早い段階から家族と話し合い看取りの指針を示し、説明しながらこれまでに19名の看取りを行ってきた。今後は更に重度化や終末期について具体的な方針内容の整備に取り組みたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故に面した時の応急手当は常日頃から、看護師より伝授、訓練している。その後の処置に関しては管理者、看護師、ドクターのいずれかに必ず連絡する様になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春・秋の避難訓練を実施。同時に避難路、避難器具の確認。近隣に対し災害時の応援を自治会を通じ回覧して頂いている。	消防署の協力を得て年2回、避難訓練を実施している。日頃から避難路、避難器具の点検、近隣住民に災害時の応援依頼や研修を行っている。スプリンクラーは早い段階に設置している。備蓄の確保はできていない。	災害は何時に起きるかわからないので、災害の種類ごとに職員全員で話し合い、日常的な重要課題として認識し、くり返しミニ訓練などの実施が望まれる。近隣の特養との相互協力体制構築の具体化を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画で、毎年各種の必要な研修科目を定例として組み入れて実施している。	職員は各種研修や勉強会を通じて、言葉かけ、対応などの接遇について、相手に不快感を与えないよう利用者を尊重した対応に心がけ、意識の向上に努めている。記録や情報の管理は鍵の付いた書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立選び等、何気無い会話から、希望を表せるように、働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の後片付けや洗濯干しなど、今まで主婦として生活してきた部分は、自ら率先してお手伝いして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事やレクリエーションでの外出時は、お化粧や好きなお洋服での参加を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストも頂いてメニューを作り、用意している。出来る方にはお手伝いをしてもらっている。	食事は全て職員の手作りで、利用者の嗜好に合わせた採食豊かな食事提供を実践している。家庭的な雰囲気の中で職員も一緒に食べている。利用者は出来る範囲で準備や後片付けなど一連の作業を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は利用者ごとに記録。水分量はそれぞれの個々に使っている量を周知し、提供ごとにさり気無くチェックし1日量をトータル記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは徹底実施。口腔ケアが出来なくなったら、緑茶ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人の身体状況に応じてトイレでの排泄が出来るように前誘導や介護を行っている。	排泄チェック表を活用し、職員は個々の排泄パターンを把握し出来るだけトイレでの排泄が出来るよう、自立に向けた支援をしている。現在、布パンツで概ね排泄自立の利用者は5名で、常時おむつ着用者は1名のみである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量チェック、献立の工夫、生活の中での運動量、体操などを行い、排便時間も設けて実施。それでも困難な方は、緩下剤の微調整を行って、排便サイクルを掴む様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	冬は週2回、夏週3回の入浴の中、汗をかいた時、汚染時、個々に応じるよう支援している。	入浴は夏3回、冬は2回を基本に入浴支援している。その時の状況によりシャワー浴、足浴を加えたり柔軟な支援をしている。普段は入浴剤も使用しているが、正月には檜湯にするなど、楽しい入浴となるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを見ながら寝たい！、ベッドでなくお布団で寝たいと、それぞれの生活感によって個別対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は各フロースタッフは周知し、2段階チェックの元、投与する間に再度、名前の確認をして投与している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リズムに沿って、それぞれの出来る主婦業を、大いに発揮して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への適宜の散歩や、敷地内で栽培の野菜等の手入れ、収穫も手伝ってもらっている。	外出は五感刺激と考え、恵まれた田園風景の中を日常的に散歩したり、近くの般若寺まで行き馴染みの人達との出会いを楽しまれている。敷地内の野菜栽培の手入れ、収穫を楽しまれ外気に触れる機会を多くとっている。家族との外出の機会もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には、買い物時に自ら購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話・手紙が出せる様支援し、携帯電話などの使用も特に制限していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの利用者は、リビングで多くの時間を一緒に過ごしておられる。職員の協力や、各自の好みの作品を適宜に掲示している。	ホームの玄関、廊下、リビングは明るくゆったりとした雰囲気がある。キッチン是对面式で利用者との対話、見守りができる配置となっている。壁には利用者の書や行事のスナップ写真が飾られている。職員の明るさでホーム内は笑いが絶えず活気に満ちている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり、お部屋でくつろいだり、お部屋に仲良しさんをお呼んでお写真を見たり話したりと、自由に暮らしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、お部屋のレイアウトは、ご家族さんと相談して自由に空間作りをしている。	各居室に洋服タンス、整理タンス、ベッド、冷暖房防炎カーテンが設置されている。本人の慣れ親しんだ家族写真、仏壇、テレビ、小物などが持ちこまれ、職員手作りの作品も飾られて、それぞれの居室として寛げる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆくゆくの事を考え、車椅子や歩行器が使えるようにハード面ではバリアフリーにし、車椅子のままリビングや表に出る事が簡単のように支援している。		